

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
1-1	地域で支えるまちづくり	地域内で地域の情報や課題が共有され、自治区・自治会、民生委員・児童委員、ボランティアグループ、NPO、事業者など様々な人や団体が協力しながら主体的に課題の解決に取り組み、お互いに支え合いながら、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持ち、自立した生活を送ることができるまちになっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・市民・事業者等の連携・協力により、自治区・自治会や民生委員・児童委員では、環境美化、防犯、交流活動の他、災害時要援護者支援、自主防災組織への結成などの活動を実施した。まちづくり協議会では、健康増進活動など幅広く住民交流活動に取り組むなど地域の特性を踏まえた取り組みが展開できた。 ・一方、地域活動へ参加している人の割合が当初37.0%に対し、R2年度では34.5%（目標40.7%）と減少している。またまちづくり協議会の設立数も当初10組織から、R2年度では18組織と増えたが、目標の20組織には至っていない。 ・NPO法人の数も当初36法人からH27年度42法人と増えたが、その後は横ばいの状況となっている。 ・「三田市地域コミュニティ懇話会」の提言や地域役員等との意見交換会では、地域役員等の負担の増大や活動の担い手不足が地域課題として挙げられており、今後これらの解消に向けた取り組みを進めていく。 	2020	3.07	3.83
				2016	3.02	3.87
				2012	3.00	4.00
1-2	人権尊重のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる差別を早期に解消し、互いの人権が尊重され、すべての人が他者に対する寛容な心を高め、互いに認め合う社会になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・啓発活動、人権に関する相談体制の充実が推進され、市民が互いを大事にする、人権を尊重する意識は高まってきている。 ・高齢者の虐待相談等は増加傾向にないが、児童虐待相談件数は、福祉・教育・医療・警察等関係機関との連携強化や、社会全体の関心の高まりと意識の醸成からも増大している。今後さらに早期発見、適切な支援につなげていく必要がある。増加傾向にある配偶者暴力(DV)についても、関係機関と連携してDVの根絶と被害者支援に引き続き取り組んでいく必要がある。 ・女性の活躍支援、社会進出の推進については、男女共同参画計画に基づき、関連施策を計画的に実施してきており、男女平等・男女共同参画意識は徐々に浸透してきているが、女性の社会参画の拡大を図るさらなる取り組みが必要である。 ・障害者差別の解消に向けて、障害者共生条例を施行し、障害を理由に不当な差別的扱いをしてはいけないこと、合理的配慮の提供など、市民に周知啓発してきた。 ・そして個々の人権を尊重し、多様性を認め合い、自分らしく生きることができる社会（まち）をつくっていくために、理念を共有しあった取組みが将来に向けて必要である。 	2020	3.15	3.77
				2016	3.14	3.54
				2012	3.08	3.72
2-1	生活の安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪や交通事故のないまちが実現しているとともに、市民一人ひとりが正しい情報を的確に把握し、判断し、行動できる消費者となり、誰もが安全で安心した生活が送れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法犯発生件数や交通事故死傷者数は大幅に減少した。これは防犯カメラの設置や交通安全教室の実施などの市の施策や、警察による警備、地域における見守り活動(登下校時の見守り、ながら見守り等)の推進によるものと考えられる。一方、特殊詐欺案件の被害は頻発しており、詐欺等に騙されないよう啓発等の施策を強化していく必要がある。 	2020	3.37	4.33
				2016	3.21	4.24
				2012	3.21	4.45
2-2	非常時への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・広範な市域に対応できる防災力が備わっていると同時に、災害が発生したときには行政・地域・市民がそれぞれの立場で公助・共助・自助の役割を果たし、市民一人ひとりが常日頃から火災予防や災害に対する備えの意識を持った地域づくりが行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災、熊本地震、近年の全国各地で多発している風水害等の発生、地域での防災訓練や自主的な防災活動への支援や意識啓発を通じ、災害発生時の自助・共助・公助、それぞれの役割の理解を深める等、市民の防災意識は大きく向上したと思われる。 ・しかし災害時に特に重要となる共助(助け合い)の取組みについて、地域コミュニティの希薄化や高齢化による担い手不足などにより、その活動が縮小・減少しつつある地域も生じており、これらの地域では、地域主体の防災活動をいかに継続していくか等新たな課題も生じている。 ・また、R2年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、行政や地域の様々な取り組みに影響を与えており、今後の取り組み推進においては、感染症対策への十分な配慮が必要となる。 	2020	3.04	4.24
				2016	2.92	4.17
				2012	2.78	4.28

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-3	水道供給	<p>・将来迎える水道施設の更新事業に備えた事業経営に向けて計画的に施設整備が行われており、誰もが安心して安全な水道水を安定的に使用できるライフラインが確保されています。</p>	<p>・市民生活に欠かすことの出来ない水道施設は、「建設」から「維持更新」する時代へと変わってきた。このような中、日々各施設の適正な維持管理や老朽化した水道施設等の計画的な更新や強靱化を進めることで、安全・安心な水道水の安定供給ができた。</p> <p>・上記の施設管理を支える経営面においては、将来にわたり安定的に事業を継続していくための「経営戦略」(H31年度～10年間の経営の基本計画)を策定し、収支見直しなど経営管理に努めることができた。</p> <p>・水道事業の取組内容や課題などについては、広報誌を有効に活用することで、理解を深めて頂く機会を増やすことができた。</p>	2020	3.97	4.23
				2016	3.69	4.09
				2012	3.94	4.32
2-4	健康づくり	<p>・市民一人ひとりが自発的・自律的に、自分にあわせた健康づくりに取り組み、みんなが生涯にわたって健やかで心豊かに生活することができるまちが実現しています。</p>	<p>・市民の健康づくりの推進では、健康づくり計画(健康さんだ21)に基づき、ライフステージに応じた健康づくり、健康診査、がん検診、歯科健診及び健康講座等を実施できている。がん検診等についても検診体制を充実することができたが、今後はがん予防と検診の重要性の周知啓発にも力を入れる。</p> <p>・各種健診と特定健診の受診率の向上に向けては、健康相談、WEB予約や検診回数の確保など、受診環境機会のさらなる充実と取組が必要である。</p> <p>・一人ひとりの健康意識を高め、自分に合った自発的な健康づくりをサポートするために、電子アプリを使った健康管理事業などの早期の確立が必要である。</p> <p>・生活習慣病予防対策も保健指導等により実施できているが、今後高齢者保健と介護予防の一体的な実施といったさらなる健康寿命延伸への取組が必要である。</p> <p>・食育の推進に関しても、家庭及び地域の食育力を高めるために、食育活動を地域と連携・協働で取り組める体制づくりが必要である。</p>	2020	3.40	4.17
				2016	3.28	4.00
				2012	3.34	4.19
2-5	地域医療	<p>・市民は、地域医療体制や救急体制の充実により、症状や緊急性に応じた最適な医療を受けられています。</p>	<p>・救急医療体制について、三田市民病院は「断らない救急」をスローガンに、救急医療部門の強化を図り、稼働率の向上を重点的に取り組んできた。救急搬送等消防本部と連携強化が図られ、救急医療を確保し提供できている。</p> <p>・また三田市民病院は地域医療連携の中心として、かかりつけ医を支援する地域医療支援病院としての役割を十分に担っており、今後もかかりつけ医とさらなる連携強化を図る。</p> <p>・小児医療、周産期医療は、神戸市北区の医療機関と連携した救急体制を確立し維持できている。また休日夜間の小児救急医療も、神戸市二次救急医療機関などとの連携により実施できており、三田市と生活圏を同じくする神戸市との連携協力が深められている。</p> <p>・休日の救急医療は安定した医療が提供できているが、小児科医師の確保に努めるなど、継続して医療提供できるよう、休日応急診療センターの安定的な運営を図る必要がある。</p>	2020	3.32	4.37
				2016	3.17	4.25
				2012	3.30	4.37
2-6	高齢者の生きがいづくり	<p>・長年培ってきた技術・知識・経験を持つ高齢者が、地域社会の中で、多世代と交わりながら自分らしく働き、遊び、学び、コミュニケーションすることを通して、生きがいとやりがいを持って社会的な役割を担い、貢献しています。</p>	<p>・高齢者の生きがいづくりでは、シニア活躍支援の総合相談窓口「いきがい応援プラザ」を開設し、シルバー人材センターやハローワーク等とも連携し支援を行い、就労や社会参加等につなげることができている。生涯現役ネットワーク連絡会を通じて、関係機関の連携強化に努めたが、さらなる連携が必要である。</p> <p>・また多世代交流など、老人クラブと連携して生きがいづくりを支援した。</p> <p>・生涯にわたって学ぶ機会の創出では、生涯学習カレッジの新課程、研究科を設けるなどして、高齢者の能力の醸成と仲間づくりなど人のつながりを広げ、地域で活躍できるよう学びの場を充実した。今後、生涯学習カレッジ修生を多様な活動実践につなげるしくみの充実が課題である。</p> <p>・高齢者に対する生きがいや仲間づくりに向けた支援がさらに必要であり、高齢者の多様なニーズを捉え、活躍の場を拡充することが課題となっている。</p>	2020	3.14	3.87
				2016	3.16	3.80
				2012	3.08	4.02

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-7	高齢者の安心	<p>・高齢者が住み慣れた地域で大切にされ、様々なサービスを利用しながら、いきいきと自立して、安心して暮らしています。また、介護保険などの公的サービスだけでなくボランティアや民間によるサービス、地域での助け合いなど多様なサービスや取り組みが提供される体制が整い、バランスのとれた自助・共助・公助の連携により、高齢者を支援する仕組みが整っています。</p>	<p>・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、地域包括・高齢者支援センターを身近な相談窓口として充実し支援できている。また、在宅医療・介護連携を推進すべくその環境づくりに、連絡会等により包括的な支援・各福祉サービスが提供できる体制を三田版安心ケアシステムとして深化させ、促進する取り組みを進めてきた。</p> <p>・介護保険事業計画に基づき、介護保険サービスの充実に努め、介護予防・日常生活支援総合事業を推進してきた。今後さらなる高齢化の進展により、一層の介護者支援と、生活支援、地域での見守りの充実とともに、地域の通いの場で介護予防の取り組みを拡充するなど、地域包括・高齢者支援センターを拠点に、地域全体で支え合える体制づくりが必要である。</p> <p>・さらには今後増加が見込まれる認知症の人が地域で安心して生活できる社会に向けて、総合的に施策を推進する必要がある。</p>	2020	3.13	4.09
				2016	3.08	4.01
				2012	3.02	4.22
2-8	障がいのある人の安心	<p>・障がいのある人が住み慣れた地域で自分らしく生活できる環境が整い、障がいの有無に関わらず、個別のニーズを地域社会から排除せずに包み込んで支援するような共生社会の構築が図られています。</p>	<p>・障害のある人が地域社会で安心して暮らし、自立した生活が送れるよう、ニーズに応じた保健・医療・福祉サービスの提供の充実、相談支援、権利擁護などの体制充実に努めてきた。</p> <p>・障害のある人が個々のニーズにあったサービスを主体的に選択し生活できているが、保健・医療・福祉・教育の連携のもと福祉サービス等の地域生活支援施策の充実がさらに求められる。居住の確保については、ニーズも高く、グループホーム等の生活の場の整備促進が必要となっている。</p> <p>・障害の有無に関わらず共に生きられる共生社会をつくっていくため、手話言語条例、障害者共生条例、共生社会推進プログラムを策定して、それに基づいた施策を推進し、障害者への理解促進と、障害者の社会参加、共に支え合い、助け合える社会づくりへの取り組みが進められている。</p>	2020	2.99	4.00
				2016	2.98	3.88
				2012	2.89	4.10
2-9	生活の支援	<p>・適切な公的扶助と市民皆保険・年金制度により、誰もが経済的に自立し、安心して生活できるようになっています。</p>	<p>・生活困窮者自立支援の充実では、自立相談支援事業を中心に住居確保給付金事業、一時生活支援事業等を通じて、生活困窮者の生活全般に関わる相談を実施し、相談内容に応じて必要な機関につなぐことができています。そして就労支援についても、ハローワーク等と連携して、必要な方を就労に結びつけた。また新たに子どもの学習・生活支援事業にも取り組んでいる。</p> <p>・ひきこもり支援は、自立相談支援事業の中で対応しつつも、対象者の把握を含め今後の課題である。</p> <p>・生活保護の実施では、庁内関係課との情報共有や自立相談支援機関との連携等により、保護を必要としている世帯や生活に困窮している世帯の把握に努め、適正に保護ができています。</p> <p>・国民健康保険は広域化により県と市町との共同運営により、適正な保険税率を設定しながら、円滑で安定した運営ができています。</p>	2020	3.42	4.25
				2016	3.27	4.04
				2012	3.46	4.34
2-10	良好な住まい	<p>・子育て世帯や高齢者、障がい者などをはじめとする全ての市民が住まいに安全・安心を感じることができ、住まいに満足できるまちになっています。また、快適で安全・安心な住まいを適正に管理し、緑豊かで良好なまちづくりに市民が主体的に取り組むことで、未永く住み続けることができるとともに、次世代への住み替えが行われる魅力豊かな居住環境が創られています。</p>	<p>・安心して生活できる環境を維持し、向上させるため各計画に基づく施策を推進した。</p> <p>・市民アンケートの満足度値も上昇しており、住み続けたいまちとなるよう施策の継続は必要である。</p> <p>・今後は、増加が懸念される空き家の活用策等を検討し、まちの魅力維持を図る施策展開が求められる。</p>	2020	3.13	4.10
				2016	3.05	3.94
				2012	3.02	4.18

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-11	景観	・三田の美しく、潤いのある景観が市民共有の資産として愛されることにより、ふるさと意識が醸成されるとともに、都市の魅力と価値を高める要因として次世代に継承されています。	<ul style="list-style-type: none"> ・H21年景観行政団体となった以降、市域全域に景観計画が定まるH30年まで期間を要したが、景観施策の取組みについて市民の理解を得ながら推進された。 ・景観計画は、市内の地域特性に応じ4つのエリアに分け運用を図り、市の魅力維持に寄与している。 ・市民アンケートでも、景観に対する満足度は平均値より高い評価を得ている。 ・古民家等については、まちの歴史を継承し、市の魅力となるよう保全活用を継続する必要がある。 	2020	3.55	3.88
				2016	3.54	3.76
				2012	3.62	4.01
2-12	安らぎのある暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが高い意識を持って、地域での美化活動や緑化活動に取り組んでいます。すべての市民が、身近に花や緑とふれあえ、潤いや安らぎを感じることができる美しいまちが形成され、より質の高い生活環境が実現しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花と緑に包まれるまちとなるよう、地域活動団体の協力を得ながら活動を維持しているが、構成員の高齢化などにより継続した取り組みが厳しい状況が生じている。 ・市民アンケートの満足度は、過去から高い評価を頂いているが、継続した取り組みが出来る制度や団体更新を図る必要がある。 ・ペットの課題として「飼い主のいない猫」の対応では、地域活動団体と行政が協力し、不妊・去勢を行うことで新たな「飼い主のいない猫」の増加を防ぐ取り組みがスタートし、動物愛護と生活環境の向上が期待できる。 ・野外焼却への住民の理解を得るための施策は引き続き取り組む必要がある。 	2020	3.45	3.99
				2016	3.48	3.88
				2012	3.44	4.13
2-13	自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境を後世に伝えるため、森林環境・水環境や多様な生物の保全に努め、地域ごとに特色のある生態系を保持活用した、人と自然が共生できるまちが実現しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の地域特性である自然環境の保全を図るため、県と連携した取り組みやボランティア活動が進められており、引続き施策を展開することで里山保全だけでなく資源として活用されることが期待される。 ・特に皿池湿原は訪れる方も多く、三田の魅力発信に繋がることから、環境保全に取り組む必要がある。 ・市民アンケートの満足度は、平均値を上回っていることから継続した取り組みが必要である。 	2020	3.48	3.98
				2016	3.42	3.89
				2012	3.45	4.12
2-14	循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> ・3R(Reduce(リデュース:減らす)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再資源化))の推進を通じて、ごみの発生の抑制、ごみとなったものについて再使用、再生利用を市民一人ひとりが実施し、環境負荷の少ない再生資源を用いた商品の普及が進められるなど、限られた資源を未来に引き継ぐことができる社会が実現しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rの取り組みでは、個人、地域団体、民間事業者の協力により推進できている。 ・高齢化にともなうごみ出し支援の在り方は、引き続き検討する必要があるが、その他の家庭系ごみの収集については新たに許可業者を設けるなど対策が図られている。 ・市民アンケートからも満足度、重要度の評価は平均値を上回っていることから、脱炭素社会を目指し今後も本施策を推進する必要がある。 	2020	3.57	4.03
				2016	3.53	3.89
				2012	3.63	4.21

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-15	低炭素社会	・地球温暖化防止対策や省エネルギー対策に取り組み、再生可能なエネルギーの有効利用を図るなど、環境負荷の少ない低炭素社会の実現を目指して取り組んでいます。	・市民等へは啓発や電気自動車の普及に伴う充電器の設置を行ってきたが、市民アンケートの結果から、重要度、満足度ともに平均値を下回っている。 ・レジ袋の有料化など脱炭素社会への動きが加速しているが、第4次総合計画期間において市民・民間事業者への啓発活動が不足していた。	2020	2.90	3.76
				2016	2.93	3.67
				2012	2.60	4.04
2-16	乳幼児期の子育て	・子どもたちが、家庭や地域で生きる力の基礎を培いながら健やかに育つとともに、親は妊娠・出産から子育て期に至る各ライフステージに応じた切れ目のない子育て支援を通じ、安心して子どもを産み育て、子育ての喜びや楽しさを見出しながら、自身も成長することができる環境が実現しています。	・少子化、核家族化、地域とのつながりの希薄化が進む中、女性就労率は上昇し、幼児教育保育無償化を契機に保育需要は増加した。保育定員の確保を積極的に図ったが、依然待機児童が発生しており、解消に向け新たな保育所の設立を準備している。 ・幼保一体化の流れの中私立幼稚園は、全園認定こども園化が完了し多様な保育ニーズに対応している。一方、市立幼稚園の認定こども園化に向けては再編計画案を策定した。今後その目的や趣旨等について市民理解に向け取り組む。 ・特に乳幼児期の保護者の育児不安への相談支援は重要であり、三田版ネウボラ拠点や子ども家庭総合支援拠点を中心に対応を図った。 ・虐待相談件数は増加傾向であるが行政と関係機関、民間団体との連携により、要支援児童の早期発見と継続的支援が図れた。今後乳幼児期の子育て支援施策において、保育士を含め専門人材の確保育成と教育・福祉・保健医療等関係機関との連携強化が重要課題と考える。 ・引き続き妊娠・出産から子育て期に続く将来を見据えた切れ目のない、かつ、きめ細やかな子育て支援サービスを提供し安心して子どもを産み育てることができる環境を確保する。	2020	3.09	4.15
				2016	3.17	4.08
				2012	3.18	4.23
2-17	学校教育の充実	・学校で学ぶ子どもたちは、さまざまな「ひと・もの・こと」と関わりながら主体的に学習に取り組んでいます。 ・学校は、子どもたちが確かな学力を身につけ、心豊かに育つように、指導方法を工夫しながら教育に取り組んでいます。 ・保護者や地域は、子どもたちが心豊かにたくましく成長していくために、学校と連携して教育に取り組んでいます。	・子どもの「生きる力」を育む教育の充実に向け、各施策を概ね予定通り実施し、成果指標のポイントも向上し、成果をあげていると言える。特に「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」についてのポイントが上昇し、生きる力の柱でもある自尊感情の高まりがみられた。このことが子ども自身の可能性を見出し、学習意欲を高めることにつながり、充実した学校生活を送る子どもが増えていると考える。また「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」についてのポイントが上昇するとともに、いじめの認知件数が増加している。これは学校での教職員研修をふまえた組織的な対応が進み、子どもの小さな変化にも目を向け、未然防止と早期発見と対応につながり、安心して学校で過ごせるよう取り組みが進んでいるからだと考える。 ・また、教職員の資質向上に向け、教育研修所の機能を整備し、授業改善に取り組み、子どもたちの生きる力の育成を図った。これらのことが安心して充実した学校での生活や学習活動を創り上げ、「全国学力・学習状況調査」においては、全国平均を上回る結果につながっていると考える。 ・そして、子どもたちが未来を切り開き、将来の目標を実現することに寄与しており、「生きる力」の醸成が図れたと考える。今後引き続きいじめなどに対する人権感覚をさらに高め、感染症への対応や、情報化、国際化など、著しい社会の変化に対応しながら、各施策に取り組んでいく。	2020	3.11	4.17
				2016	3.14	4.06
				2012	3.13	4.26
2-18	地域ぐるみの子育て	・親が親としての自覚と責任を持つとともに、ふるさと三田の文化・歴史や豊かな自然などの豊富な学習資源と人材を活かし、次代を担う子どもたちと親を地域全体で協力して支えるまちが実現しています。 ・青少年が社会とのかかわりを自覚しつつ、多様な経験を通して成長し、将来に夢と希望を持って社会で活躍しています。	・学校支援ボランティア、コミュニティスクールなど地域力を生かした学校支援やこども未来塾、放課後子ども教室、こども食堂など市民主体の子どもの居場所や学びの場づくりが広がり、地域全体で子ども・子育てを家庭を応援する市民意識の醸成が図られた。 ・トライやる・ウィークや家庭教育学級は事業所や保護者の負担軽減等の課題がある。 ・子ども家庭総合支援拠点を設置し、子どもや家庭に関する様々な相談に対して、学校、地域等の関係機関と連携し、適切かつ継続的な支援を行う体制強化が進んだ。 ・学校や青少年健全育成関係団体等との連携・協力のもと、青少年の見守りや声掛け、有害環境の浄化など青少年の健全育成、安心安全に向けた継続的活動は重要であり引き続き取り組んでいく。 ・子どもの貧困、不登校、引きこもり、虐待等子どもの健やかな成長を妨げる重大な問題については、実態把握や支援対策拡充に向け関係機関や団体、更には地域住民とも協力し進める必要がある。今後も本市の特性(豊富な人材や自然環境、文化歴史、多くの教育機関等)を活かし質や魅力の高い地域の子育て環境づくりを進める。	2020	3.00	4.02
				2016	3.02	3.91
				2012	2.96	4.09

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-19	生涯学習、歴史の継承と文化の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や文化資源・施設を活用しながら、市民の主体的な学びが促されるとともに、学びの成果が地域や社会で活かされている生涯学習のまちづくりが進んでいます。 ・市民が良質で幅広い芸術・文化活動に触れる機会が広がり、市民の手による新たな三田の文化の創造と、次世代の担い手の育成が進んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、前期から後期計画の成果指標にも示しているとおり、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、生涯学習施設の利用者の増加など多様な学びの機会の提供ができた。また、総合文化センターや市民センターを拠点として、市民の文化芸術活動や鑑賞事業による機会も増え、市民の文化への取り組みが定着できている。一方、生涯学習では、図書館をはじめとしたプログラム事業の受講者数は増えてきているものの、さんだ生涯学習カレッジの受講者数は年々減少しており、生涯学習全体の在り方の検証が必要である。 ・成熟時代の文化活動や生涯学習における多様化を踏まえた支援の在り方や文化財等地域の文化資源の活用、総合文化センターの管理運営と文化振興事業の在り方などを「三田市文化芸術ビジョン」を生かして、具現化に向けて検討を進めていくこととしている。 	2020	3.09	3.59
				2016	3.08	3.50
				2012	3.04	3.73
2-20	スポーツ・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが自分自身に適したスポーツやレクリエーションを通じて心身ともに健康に暮らし、スポーツが持つ多様な可能性を活かして、夢と元気があふれるまちになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、前期から後期計画の成果指標にも示しているとおり、週1回以上運動やスポーツをしている人の割合や運動公園などを利用している人は増えてきており、スポーツ施設の充実により活動時間やスポーツ活動の多様化に対応できたことなどスポーツが持つ多面的な可能性へのアプローチへ繋げることができたと言える。また、地域スポーツの推進では、スポーツクラブ21を中心に地域コミュニティを基盤として、各種イベント事業など多種・多様な取り組みが展開できた。 ・ノルディック・ウォーキングやスポーツを通じたノーマライゼーションの推進は後期計画から重点的に取り組んできたため、今後も計画的な取り組みや普及が求められる。 ・国際的な大規模イベントと連携し、スポーツがもつ多面的な魅力の発信とスポーツ活動を高める取り組みや人と人との共生の観点からの取り組みの検討を進めていく。 	2020	3.16	3.62
				2016	3.16	3.57
				2012	3.05	3.77
2-21	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を活かした最適な土地利用が進み、三田市全体のまちの魅力と活力が維持されて、にぎわいと潤いのある都市空間が実現しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三田駅及び新三田駅においては、都市計画手続きを確実に執行し事業着手が図られた。 ・市街地調整区域の土地利用を図るための条例を施行し運用が図られている。 ・地区計画を定める新市街地において、社会情勢の変化に応じた規制緩和を実施した。 ・土地活用を図るため、制度等の周知が不足している。 ・市民アンケートの満足度、重要度とも平均値を下回っているが、まちの魅力と活力が維持される施策が展開されている。 	2020	2.97	3.78
				2016	2.95	3.63
				2012	2.89	3.86
2-22	多様な交流観光の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設の充実、周辺地域との連携、季節に応じた情報発信等により、多様なニーズに対応できる環境を整え、広域から多くの観光客が三田を訪れています。また、新たな魅力の発掘・創出により、地域ブランドを高め、市民が自分の住んでいるまちに対する誇りと愛着を持ち、来訪者に対しておもてなしの心によりお迎えし、交流を深めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数が当初（H26年度）3,440千人からR1年度3,569千人と増え、またさんだ観光ガイド利用者数や体験型観光者数も増加となり、傾向としては微増だが、魅力ある観光地の形成に向けての取り組みが徐々に進んできた。 ・地域ブランドづくりでは、事業者・団体等と連携した様々な新しい魅力を創出しながら、発信やイベントを通じた取り組みにより成果が段階的にも出てきたと言える。 ・観光ビジョンの策定と施策への反映、更には事業者・団体等のネットワークを生かし、体系的かつ具体的に魅力ある観光地の形成や地域ブランドの育成にも繋げる取り組みを進める。 	2020	2.85	3.78
				2016	2.91	3.66
				2012	2.90	3.87

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
2-23	地域経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致が進み、高度な生産機能・流通機能等が整備されるとともに、学術研究機関と連携した創業支援が促進され、雇用創出が実現しています。 ・就業環境や就業機会が整備され、年齢や性別等に関係なくすべての市民がいきいきと働けるまちになっています。 ・商業では、消費者ニーズに対応した魅力ある店の集積により賑わいのあるまちが形成され、工業では、新技術・新製品の開発等、時代の変化に対応したもののづくりが盛んに行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「市内民営事業所数」以外の4つの指標項目は目標を達成しており、施策として順調に進捗できてきたと言える。特に、誘致活動の推進により、順調に企業進出が進み雇用創出に繋がっており、これまで取り組んできた企業誘致や雇用創出などの諸施策が計画どおり進められたと評価できる。 ・創業支援では、市商工会と連携したことにより起業者が増加した等、創業支援の充実に繋げることができたと言える。 ・商工業の振興では、主要駅周辺やウッディタウン等での商業集積の進展により賑わいのあるまちづくりの形成が図られたものの、フラワータウン中心部では空き店舗も見られ、リノベーションやテナント誘致の推進の他、三田駅前の既存の商店街等まちの活性化が必要となり、地域経済の活性化に向けた新たな取り組みの検討をする。 	2020	2.82	3.96
				2016	2.82	3.77
				2012	2.79	4.02
2-24	交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して利用できる交通ネットワークが構築され、市民生活の利便性が向上し、地域間交流、産業、観光で賑わうまちが実現しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に関する組織を設置するとともに三田市地域公共交通網形成計画を策定し鉄道、バス、タクシー事業者との連携が図られている。 ・高齢化に伴う移動確保のため、地域内交通の導入検討も進められた。増加する高齢者への移動支援については、福祉的視点も踏まえ引き続き検討する必要がある。 ・市民アンケート結果からも、満足度は平均値を下回り、重要度は高いことから、新たな移動サービス充実が求められている。 	2020	2.95	4.23
				2016	2.86	4.11
				2012	2.93	4.25
2-25	農業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能で活力ある三田の農業を発展させていくための環境整備や、市内消費の推進と三田の強みを活かした地産外商の展開による三田の「食」と「農」の振興に取り組み、魅力的で未来につなげる近郊農業が形成されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三田の農業の将来を支える担い手の確保と育成については、第4次三田市農業基本計画とリンクさせながら取り組みを推進し、認定農業者数と認定新規就農者数を増加させることができ、計画的に取り組むことができたと言える。 ・市外での直売活動等は、延べ件数の当初(5件)からR1年度(43件)と大きく増加させることができ、市外への発信・販売と観光との連携を計画的に進められたと言える。 ・三田の農畜産物のブランド力強化は、新品目導入や生産量増加、付加価値の高度化に向けて取り組んできたが、道半ばの状況であると言える。 ・担い手の確保育成や地域ブランドの創造等の農業振興における課題と農業の担い手不足などの課題を踏まえた、農村の再生を一体的に取り組む仕組みや施策の検討を進めていく。 	2020	2.82	3.88
				2016	2.83	3.72
				2012	2.75	3.94
3-1	行政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所では、時代や社会の変化に対応できる意欲に満ちた職員によって、機能的な組織体制のもと、市民に開かれた政策決定の仕組みがつけられています。明確な目標設定と適切な評価によるマネジメントシステムを確立し、限られた経営資源を効率的に活かした健全で安定した行財政運営が行われています。また、これらにより、市の取り組みがより効果的に行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人事マネジメントにより個々の職員が持つ能力・意欲の向上を図り、重点施策に基づく柔軟な組織改正を行うことにより、より効果の高い市民サービスを提供できる体制を創出することができた。 ・成長から成熟に向けたまちづくりを進めていくため、行財政構造改革による財政の健全化への取り組み、公共施設マネジメントによる施設の適正化に向けた取り組みなど、持続可能なまちづくりへの基盤づくりができた。 ・窓口のワンストップ化やICT化による利便性とセキュリティの高い行政サービスの実現に向けた取り組みを始めるとともに、全国トップクラスの交付率を持つマイナンバーカードを活用した新たな行政サービス提供の基盤ができた。 	2020	2.97	4.00
				2016	2.98	3.88
				2012	2.90	4.05

第4次総合計画の総括について（概要）

資料8

番号	施策	第4次総合計画における将来のあるべき姿	総括評価	調査年次	満足度	重要度
3-2	協働	<p>・市民主体のまちづくりを進めるため、全ての取り組みを通じて、市民、事業者及び市がそれぞれの役割に応じて行うまちづくりが、対等な関係に基づく協働のもとに、効果を上げながら行われています。</p>	<p>・三田のまちづくりへの関心度や市民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思う人の割合は、当初からほぼ横ばいの状況で推移してきた。事業者の相互連携など地縁型、テーマ型、事業者それぞれが主体的に課題の解決に向けて取り組もうとする機運は高まっている。</p> <p>・情報の積極的な提供と共有化の推進に向けては、広報のリニューアル版など時代に即した対応ができた。</p> <p>・テーマ型市民活動と行政・地域の課題やニーズとのマッチング、スタートアップ支援など新たな協働の仕組みづくりのへの検討を進める。</p>	2020	2.98	3.69
				2016	3.00	3.58
				2012	2.93	3.78
4-1	チーム三田	<p>・三田版総合戦略は、人口減少の克服、地域経済と雇用の活性化、市外からの定住促進等の様々な分野における5ヶ年の取り組みの方向性をまとめたものです。「子どもに夢を高齢者に安心を地域に元気を」を具体化した取り組みを一体的に実施することで、相乗効果により「日本一住みたいまち 三田」を実現します。</p>	<p>・個別にみると、所定の成果を上げたものもあったが、総合戦略の目標人口は現時点で達成できていない（R3目標人口：116,000人 R2人口：110,996人）。また、市民意識調査における「居住意向」をみると、H28では、「今後も住み続けたい」との回答は64.7%であったが、R3では、63.1%に微減している。これらは、個別の取り組みが人口減少を抑え込むところまでは至っていないことを意味するとも考えられる。</p> <p>・次期総合戦略（これを含む総合計画）の策定に当たっては、人口の増減要因（社会増減、自然増減）の分析と市民意識を踏まえた対応策を検討するとともに、人口減少下にあってもまちの活力を維持するための取り組みについて検討する。</p>	2020	2.92	3.24
				2016	なし	なし
				2012	なし	なし